気づいて一歩ふみだすための人権シリーズ 2

ウェルカム！

―外国人の人権―

人権問題は難しい問題ととらえられがちですが、実は身近な生活のなかにひそんでいます。日常の、なにげない一言や行動の中にその芽があります。人権の基本は、相手を思いやり大切にすること、そして、自分の尊厳も守り大切にすることです。こうしたことは、「人権」だとあらためて考えなくても、私たちの日常生活や社会生活・職業生活の上で意識していきたいものです。このシリーズは、テーマごとの人権課題をとりあげ、その人権課題をドラマで掘り下げていくことで、そこにある人権を意識し、気づき、そして、視聴者それぞれが明日の自分のために一歩ふみだせるよう工夫し構成したものです。

日本で暮らし働く外国人が増えています。外国人と働くには、多様性を尊重し、その文化を受け入れると同時に、私たちに日本の文化や習慣も尊重してもらうことが必要です。この作品は、企業の広報担当者を主人公に、異文化の壁をむしろ扉としてとらえ、開いていくことを描いた教材です。

上映時間16分　[C#2616]
DVD 本体価格 66,000円(税抜)

解説書・チェックシート付き
字幕・副音声版付き

東映株式会社　教育映像部
〒104-8108　東京都中央区銀座3-2-17
http://www.toei.co.jp/edu/

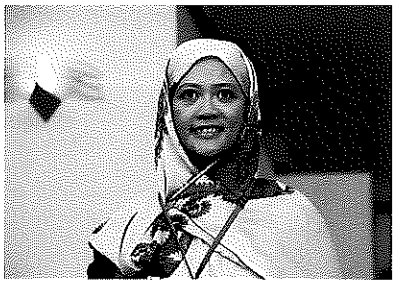
気づいて一歩ふみだすための人権シリーズ②

ウェルカム!

―外国人の人権―

ストーリー

チャプター① 「違いは壁?」



若槻さくらは入社6年目。ホテルグループの広報室で、広報誌の取材を担当している。その日、午前中は新入社員の研修の様子を取材。今年、会社は外国人社員を積極的に採用しており、ヒジャブを身にまとったムスリムの女性も講義を聞いている。社員研修を担当する人事部の楊梅怜は、中国出身で入社10年目。ホテルで働くためのサービスマニュアルをつくるなど、実績を積み重ねている。しかし、マニュアルだけではない心づかいが大切だと楊は説明する。ヒジャブの女性や楊の講義の様子を取材する中で、さくらは多文化共生について理解を深めていく。

チャプター② 「壁は扉?」

さくらの午後の取材は、鯉川専務がアメリカでヘッドハンティングした海外営業部のデビッド・ルイスへのインタビューだった。待ち合わせのカフェで、英語が不安なさくらが挨拶の練習をしながら待っていると、現れたルイスは日本語が流暢だった。カフェの店員が注文を取りに来る。店員もまた、英語が苦手でルイスがいるのに、さくらへ話しかける。ルイスはやさしく抗議する。「言葉が通じないとしても、私はここにいる。無視されるのは哀しい」と。そこに、鯉川専務と楊が現れる。違う文化をもった人と付き合うのは実に面倒くさい。しかし、それを乗り越えることでイノベーションが生まれる。鯉川専務はカーネギーの言葉を引用する。「変化を歓迎しよう。もてなそう」国籍や文化の違いを「壁」ととらえず、「扉」と考え、開き、進んでいくことが大事なのだと、さくらは改めて実感する。

プロデューサー 中鉢裕幸
新井英夫
脚本 山上梨香
撮影 菊池 亘
監督 CLOVER GREEN

制作協力 ㈱ターゲット
企画・制作 東映株式会社 教育映像部

2016年作品 p.

関東営業推進室 東京都中央区銀座3-2-17 〒104-8108 ☎03−3535−3631
関西営業推進室 大阪市北区梅田1-12-6 〒530-0001 ☎06−6345−9026
広島出張所 広島市中区橋本町5-2 〒730-0015 ☎082−511−2066
福岡出張所 福岡市博多区中洲4-3-18 〒810-0801 ☎092−262−3101

●お買い上げは……